

The 50th Mori Yamama City Histories

守山市制施行

50

周年記念誌



The 50th Mori Yam a City Histories

守山市制施行

50

周年記念誌





もくじ

発刊によせて	…4
地勢・守山市民憲章	…6

第1部 年史編

前史	明治～1970(昭和45)年	市制への道のり	…8
1970年代	1970(昭和45)年～1979(昭和54)年	守山市誕生	…10
1980年代	1980(昭和55)年～1989(平成元年)	まちづくりの前進	…14
1990年代	1990(平成2)年～1999(平成11)年	自然との調和	…18
2000年代	2000(平成12)年～2009(平成21)年	市民が主役	…22
2010年代	2010(平成22)年～2019(令和元年)	さらなる飛躍へ	…26

守山人からの熱きメッセージ	…30
---------------	-----

第2部 市民憲章編

第1章-1	はたらの住むまち	…34
第1章-2	水と緑、憩いの公園	…36
第1章-3	まちの基盤、道路と河川	…38
第1章-4	野洲川とともに—野洲川の恵みと改修工事—	…42
第1章-5	ごみの分別収集と処理施設	…46
第2章-1	学校園教育の充実	…48
第2章-2	中山道守山宿とともに	…51
第2章-3	遺跡の整備、そして活用へ	…52
第2章-4	文化財・伝統行事(神事)の保存・継承をめざして	…54
第2章-5	市民による文化芸術活動	…56
第3章-1	人権尊重・男女共同参画のまちづくり・平和事業	…60
第3章-2	市民の手による国際交流	…63
第3章-3	自治会と地域の力	…64
第3章-4	市民活動の広がり	…66
第3章-5	福祉の充実	…67
第4章-1	地域に根ざし、営まれている産業	…68
第4章-2	市の玄関づくり	…70
第4章-3	中心市街地の活性化	…71
第5章-1	青少年の健全な育成	…72
第5章-2	健やかな市民生活の実現へ	…74
第5章-3	市民スポーツの広まり	…76

未来へのひとことメッセージ	…79
---------------	-----

第3部 資料編

統計で見る守山50年	…84
歴代市長・助役・副市長・収入役・教育長	…85
自然・地勢	…86
決算／人口	…87
産業／農業／漁業	…88
事業所／工業／商業	…89
教育	…90
運輸	…91
道路／衛生	…92
文化	…93
守山名誉市民の紹介／市の誓い	…94

編集後記	…95
------	-----



The Garden City
つなぐ、守山





発刊によせて

昭和45年7月1日、滋賀県下で7番目の市として市制を施行して以来、本年7月で満50年という記念すべき年を迎えました。

その間、本市はあらゆる困難を克服しながら大きく発展、成長し、すばらしい変貌を遂げてまいりました。野洲川改修による防災対策、都市基盤と産業の形成、教育文化の振興、福祉医療の充実、琵琶湖の環境改善やわたるの再生をはじめとするうるおいのある生活環境の創生など各方面にわたり安定を期すことができ、市制施行当時約3万5千人だった人口も、約8万4千人となり、いよいよ成熟した都市として着実に歩み続けておりますことは、ひとえに幾多の先人の偉業と市民各位のご努力の賜物であり、心から敬意と感謝の意を表すものであります。

50周年を契機に市民の皆様とさらに力を合わせて、「のどかな田園都市」を基本理念に、「住みやすさの充実」と「活力のあるまちづくり」を両輪として、魅力にあふれ、安全、安心に暮らせる『住みやすさ日本一が実感できるまち守山』に向けて鋭意努力するとともに、市民の心を心とした行政の推進に全力を傾注してまいり所存です。一層のお力添えを賜りますようお願い申しあげ、発刊のごあいさつといたします。

令和2年7月1日

守山市長 **宮本和宏**



市制施行50周年を祝して

守山市制施行50周年、誠におめでとうございます。

この記念すべきご慶事を市民の皆様とともにお祝いできますことを大変喜ばしく思います。

本市は、昭和45年に3万人市制の特例措置で誕生しました。以来、「のどかな田園都市」を基本としながら、都市基盤の整備や産業の発展、福祉・医療の充実、教育・文化の振興、そして豊かな自然を守りながら、湖南の中核都市として確実な歩みを続けてまいりました。

今日の発展の陰には、世紀の大事業と言われた野洲川の改修をはじめ、まちづくりに向けた先人たちのたゆまない努力と情熱があったからこそと考えており、ここに改めて感謝を申し上げる次第であります。そして、市民の皆様には新しい時代にふさわしい守山市の発展のために、一層のご支援ご協力を賜りますようお願い申し上げます。

市議会といたしましても、市民の皆様への負託に応えるため、今後も安全・安心で住みよいまち守山市の発展に寄与することができるよう、全力で取り組んでまいり所存でございます。

結びに、市制施行50周年を契機に、守山市のさらなる発展をご祈念申し上げまして、発刊によせるご挨拶といたします。

令和2年7月1日

守山市議会議員 **小西孝司**

地勢



市章

守山市の頭文字の「も」を図案化したもので、平和円満と飛躍発展の姿を象徴しています。

※1965(昭和40)年6月合併10周年記念の公募採用作品・大津市／中村基一作



市の木 クスノキ

勝部の宮の森で今もうつ然たる巨木が見られるクスノキは常緑で、わが国に産する樹木のうちで最大になるものです。葉は長楕円形革質で佳香があります。そして、この若葉が美しいのは黄白色の小花をつける5月頃です。成長も早く、雄大で力強い木です。

※1975(昭和50)年に市制施行5周年を記念して制定



市の花 妙蓮(みょうれん)

1965(昭和40)年、県天然記念物に指定された田中の大日堂に咲く妙蓮は、紅色で一茎に数多くの花をつけます。花びらの数は3000~5000枚にも達する珍しいもので、歴史的にもゆかりのある花。1997(平成9)年6月には保護育成をめざして近江妙蓮公園が完成しました。

※1975(昭和50)年に市制施行5周年を記念して制定

守山市民 憲章

わたくたちは、「のどかな田園都市」守山の市民であることを誇りとし、この恵まれた環境のもとに、おのおのが力をあわせて、すべての人びとの幸せをねがい、生きがいのあるまちづくりのために、ここに、この憲章を定めます。

- 1 美しい水と緑のあふれる 秩序のあるまちをつくりましょう。
- 1 伝統に学び 文化の香りたかいまちをつくりましょう。
- 1 人権をおもんじ 信頼しあえるまちをつくりましょう。
- 1 働く喜びを大切にし 産業の栄えるまちをつくりましょう。
- 1 若い力をいかし 活気と希望にみちたまちをつくりましょう。

※1980(昭和55)年8月1日告示



第1部 年史編





市制への道のり

明治時代初期から市制実現まで



▲守山町時代の駅前商店街

明治以降の市町村制度の変更や合併を経て、現在の市域に広がり、これが市制施行への足がかりとなりました。

廃藩置県で大津県に

明治新政府は、1871(明治4)年7月に廃藩置県を実施し、全国を3府302県の行政区に分けました。江戸時代の領地を残したままの再編であったため、市域には多くの他県の飛び地ができ、行政としては不都合でした。

そこで、新政府は、同年11月に全国を3府72県に統廃合しました。市域は大津県の管轄下になり、天領・旗本知行所、淀・大溝・膳所藩など領地がこまかく入り乱れていた江戸時代の名残が一扫されました。

区制施行で野洲郡に

滋賀県では、新政府の方針を受け、158区に分け、区制を施行しました。市域は、野洲郡5、栗太郡4の計9区に編入されました。

その後、新政府の指導に基づき、立花村と戸田村が合併し立田村になるなど、村の合併が進み、ほぼ現在の区画になりました。

連合戸長制の施行

1885(明治18)年に連合戸長制がとられ、市域には八つの連合村がで

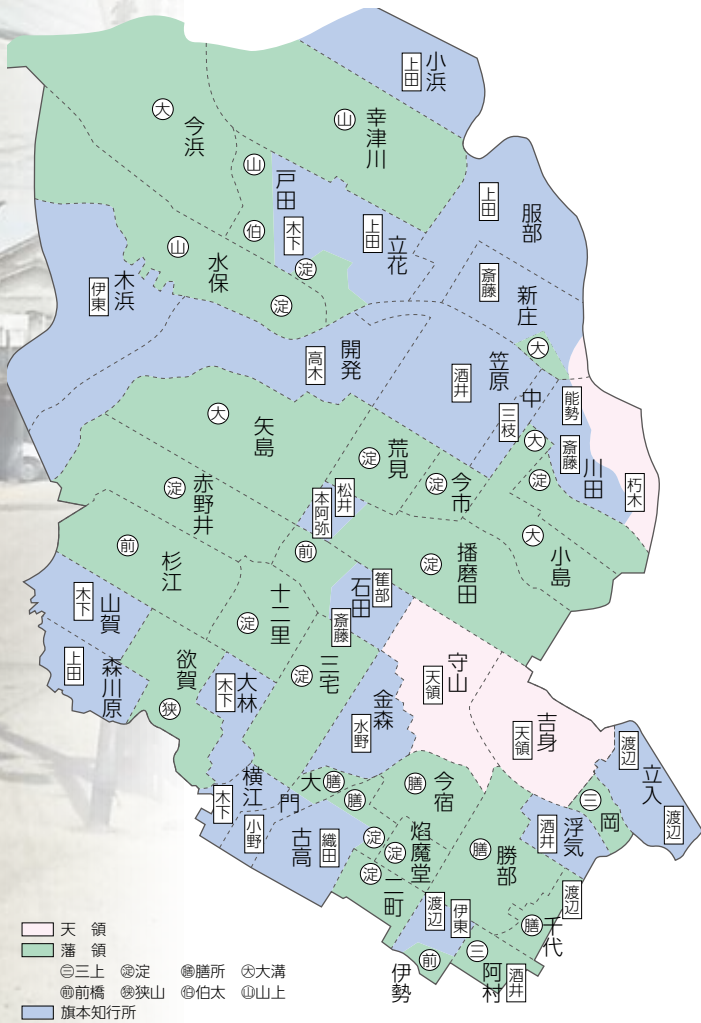


▲物部村勝部に開業した旧守山駅舎 [1912(明治45)年]

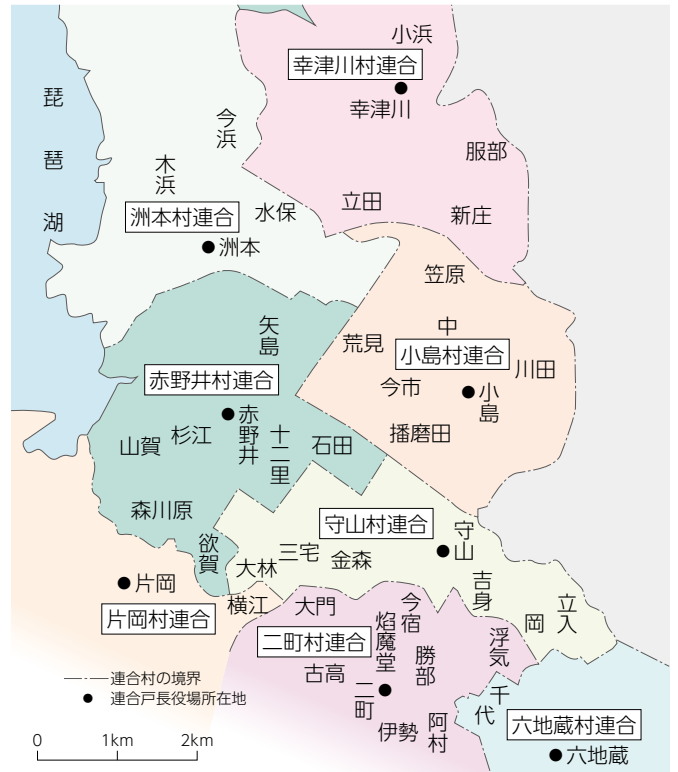
きました。連合戸長役場は、それぞれ片岡村・六地藏村・二町村・守山村・赤野井村・小島村・幸津川村・洲本村に所在していました。

町村制の施行

1889(明治22)年に町村制が施行され、野洲郡守山、小津、玉津、河西、速野、中洲の6か村ができ、1904(明治37)年に野洲郡守山村が町制を施行して守山町となりました。1941(昭和16)年に野洲郡守山町が、長い協議の末に隣接する栗太郡物部村と合併しました。



▲近江国野洲郡・栗太郡藩領図 [1701(元禄14)年]をもとに作成

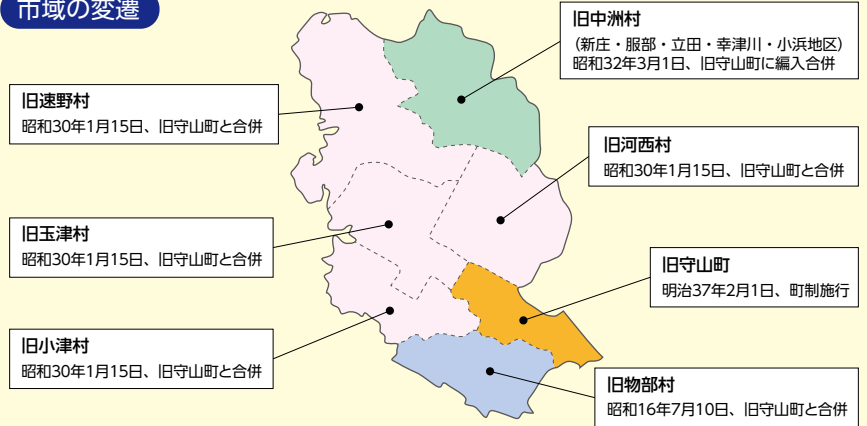


▲連合村の区域図 [1885(明治18)年]をもとに作成

町村合併が進む

1955(昭和30)年に野洲郡守山町が野洲郡小津・玉津・河西・速野の4か村と合併し、さらに1957(昭和32)年に野洲郡中洲村の大字新庄・服部・立田・幸津川・小浜を編入しました。こうして野洲郡守山町が現在の市域に広がったのです。

市域の変遷



▲守山市になる前の市域

市制施行前のまちの風景



▲守山駅開設30周年記念式典 [1940(昭和15)年]



▲田園の風景 [昭和30年代]



▲琵琶湖大橋と船着き場 [昭和40年代]

守山市制
50年の歩み

1970年代

1970(昭和45)年

1979(昭和54)年

守山市誕生

都市づくりに全力投球!



▲1970(昭和45)年、市政の発展を誓って握手を交わす北川俊一初代市長(左)と北田昇市議会議長(右)



▲守山市制誕生を祝って守山音頭の振付が完成。夏の七夕まつりで初の総踊りが行われました

市制実現の宿願を果たし、交通網・集落内道路・
上下水道など市民の生活環境の整備を中心に、
都市づくりの基礎固めに邁進しました。

守山市制の実現

1970(昭和45)年7月1日、守山市が誕生しました。

中央公民館で開催した守山市制施行記念式典には来賓、招待者、市民が多数つめかけ宿願の達成を喜び合いました。

北川俊一初代市長(元守山町長)は「昭和39年の琵琶湖大橋架橋・取付道路の完成が、守山市発足に大きく貢献した」と所感を述べ、さらに「明るい豊かな田園都市守山の実現に努める」と都市づくりに全力投球

する姿勢を示しています。田園都市という言葉はこの後も引き継がれていきます。

市制施行には人口5万人が必要とされていました。当時の人口は約3万5000人でしたが、3万市制の特例を求める努力が実を結び、全国の類似団体とともに市制施行が実現したのです。

野洲郡守山町は守山市と変わり、町役場は市役所と呼ばれ、県内で7番目の市としてスタートを切りました。



▲整備された幹線道路・県道146号欲賀守山甲線(山賀交点～銀座西交点)



▲当時の県道



▲当時の集落内道路

道を造ってまちを創る

1971(昭和46)年、守山市発展に向けて守山市総合発展計画を策定、のどかな田園都市の形成を基本理念として具体施策が定まりました。

施策のなかでも都市基盤の整備、とりわけ「道を造ってまちを創る」を標榜して積極的に道路整備計画を実施に移しました。土ぼこり、水たまり、狭隘に悩む集落内生活道路は、修繕、舗装、拡幅を進めて大幅に改善し往来しやすくなりました。

市内の幹線として勝部守山甲線や勝部吉身線などの都市計画道路が完成し、また湖南幹線道路や欲賀守山甲線の県道も部分開通し、車社会を支える交通網は大きく向上しました。

位置を変えて一新され、立派な橋上駅となった守山駅舎は、周辺地域の整備と相まって都市としての風格を高めました。



橋上駅に整備された▶
守山駅

生活環境の向上へ

守山市の上水道は農村地域から始まり1960年代に全市へ普及拡大しました。そして、市制施行の翌年から3か年で立入水源地の拡張、洲本水源地の新設を実施しています。

一方、工場排水や生活雑排水の増加に対する水質保全のため、また汲み取り便所の臭気など居住環境の改善をはかるため、下水道が必要不可欠な事業となり、汚水・雨水別収集の分流式で整備する事業に着手しました。琵琶湖総合開発事業の関連もあり、事業は大幅に推進しました。

野洲川は過去たび重なる洪水をもたらしていましたが、国の直轄事業による改修が起工され、8年後の1979(昭和54)年に新設水路の通水が実現しました。

1970(昭和45)年

7月 守山市発足、北川俊一初代市長就任。(人口3万5112人、世帯数7681世帯) 守山音頭振付発表。市制施行を記念し守山総踊り開催

12月 県立成人病センター開設

1971(昭和46)年

2月 北公民館開館

6月 西友ストアが駅前が開店

9月 守山市総合発展計画策定

12月 野洲川改修工事起工式

1972(昭和47)年

2月 医療法人御上会守山病院が開院

4月 野洲川改修工事で川辺地区のうち24世帯移転

1973(昭和48)年

4月 守山駅舎が橋上駅として新築完成

10月 守山市野洲郡少年センター開設

1974(昭和49)年

4月 吉身小学校、守山小学校から分離開校
公共下水道事業始まる

1975(昭和50)年

1月 米国ハワイ州カウアイ郡と姉妹都市提携

2月 高田信昭市長就任

8月 市の木に「クスノキ」、市の花に「妙蓮」が決定

1976(昭和51)年

2月 平和堂守山店が駅前が開店
農業者トレーニングセンター完成

4月 小津会館(公民館)・中洲会館(公民館)開館

1977(昭和52)年

4月 守山会館(公民館)開館
県立総合保健専門学校開校

10月 市民体育館オープン

12月 河西ニュータウンの第1次分譲開始

1978(昭和53)年

1月 吉身会館(公民館)開館

4月 守山市新総合発展計画策定
市立図書館オープン
守山北中学校、守山中学校から分離開校

1979(昭和54)年

1月 速野会館(公民館)開館

5月 守山市野洲郡勤労福祉会館つがやま荘オープン

6月 野洲川放水路通水式

8月 全国高校総合体育大会バレーボールの会場となる

10月 近江守山郵便局新局舎オープン



▲土地改良実施後の水田



▲地元商店街



▲第1号の大型量販店

産業の振興

守山の農業は恵まれた自然環境のなかで営まれてきました。高度経済成長にともない兼業農家が増加したものの、市制施行以降も農業を基幹産業として土地改良事業などの整備をはかり、米・麦・大豆を中心とした土地利用型農業を展開してきました。また、米以外にも特産品をつくらうと、モリヤマメロンの栽培などが始まりました。

守山の商業は、守山駅から中山道周辺の地元商店街を中心に栄えてきましたが、駅前に西友ストアが本市最初の大型量販店として進出し、その後さらに平和堂も進出しました。地元商店街にとって影響は大き

く、度重なる話し合いを通して調整がはかられてきました。

工業は、市制施行以前からの工場誘致施策を継承し、古高工業団地などで公的に工業用地を造成し、分譲する手法で積極的に工場誘致を推進しました。また、交通上の好立地にある勝部工場適地には、日本コカ・コーラなどの誘致を契機として加工組立型工場が多数進出してきました。

健康を支える

地域で運動会などが盛んになるなかスポーツの普及をはかるため、市民運動公園計画を立て、計画に基づき農業者トレーニングセンター・市



▲古高工業団地

民体育館・市民スポーツ広場・テニスコートを建設しました。これらの施設はスポーツ大会などで定期的にご利用されるようになりました。また、スポーツを楽しむ機会として、市民歩こう会・野洲川健康ファミリーマラソン・成人式祝賀駅伝大会などのイベントを守山市独自行事と

TOPICS モリヤマメロンの誕生秘話

甘い香りとみずみずしい果肉、糖度が高く美味しいメロンとしてその名が知られるモリヤマメロン。

市の農業を振興するうえで地域特産物を育成しようと、1977(昭和52)年に農協の働きかけによって試作が始まりました。このとき栽培にあたったのは、わずか6戸の農家でした。以来、高品質管理を徹底するなどの努力が実を結び、モリヤマメロンは全国にその名が知られるようになったのです。現在はJAおうみ富士ファーマーズマーケットおうみんちで縦縞模様のアムスメロンと網目模様のアールスメロン(マスクメロン)が販売されています。



▲糖度が高く美味しいモリヤマメロン

※出典：近畿地方整備局琵琶湖河川事務所
発行『野洲川放水路』



▲農業者トレーニングセンター[1976(昭和51)年]



▲成人病センターの工事進む



▲暴れ川と呼ばれた改修前の野洲川※

して根付かせてきました。

市民の健康を守るため、子宮がん検診、母親教室、市民健康相談などの保健事業を開始しています。医療機関も、県立成人病センター、医療法人御上会守山病院、守山市野洲郡休日急病診療所などの施設が開設され、市民の医療が支えられてきました。

地域の拠点づくりへ

高田信昭市長は施政方針の一つに「市民との対話の充実」を掲げ、その実現のため市内の各学区に地区会館を整備しました。行政の常設窓口機能と公民館活動の場を兼ねていたため、市民と行政の距離は近くなり、まちづくり活動が活発化してきました。

近代化の波が押し寄せた時代



▲発展が進むまちなみ



▲地区会館が次々と開館(左は当時の吉身会館、右は現在の速野会館)



まちづくりの前進

のどかな田園都市の実現へ



▲声を合わせて市民憲章を唱和した成人式(中央公民館) [1981(昭和56)年]

市制施行10周年を記念して市民憲章を制定しました。
保健衛生・文化・スポーツなどの基盤・拠点となる施設を
市民のよりどころとして、まちづくりが前進しました。

市民憲章の制定

のどかな田園都市の理念のもと、立地条件に恵まれ、市民が粘り強くまちづくりに取り組んだ結果、1980(昭和55)年に守山市の人口は4万6500人を超えました。

こうして都市化が進むなか、市制施行10周年を記念して、市民生活の質を高める道しるべとして市民憲章を制定することになり、その内容を市民に募集しました。募集にあたっては、市民生活の幸せ、文化の向上、産業の振興をテーマとし、形

式・内容は自由でした。

1980(昭和55)年に市民参加の制定委員会を設置し、広く市民に呼びかけた結果、38点の応募がありました。制定委員会がそのなかの優秀作品を取り入れ、起草部会で憲章案をとりまとめ市長に報告、市民憲章(詳細は第2部参照)を施行しました。それ以降、市民憲章は市内の公式行事や各種イベントなどに際して、現在も参加者全員が唱和するようになっています。

人口増加と野洲川改修にともなう残事業への対応などの新たな課題を

解決し、将来を見通し、快適な市民生活と田園都市の建設をめざして、1985(昭和60)年に第3次守山市総合発展計画を策定しました。この計画は、市民憲章の具現化を通じて、市民福祉の向上につながるまちづくりを進めていこうとするものです。



▲市民憲章碑(市役所正面玄関前) [1980(昭和55)年]

The Garden City
つなぐ、守山

1980
↓
1989

The 50th

Moriyama City Histories



▲幸津川町で操業した守山市環境センター [1985(昭和60)年]



▲市内ごみ集積所 [1982(昭和57)年]



▲守山市環境センター指令室内部 [1985(昭和60)年]

市民生活の向上へ

1982(昭和57)年に市民病院が、地域の中核医療機関として発足しました。その前身は、医療法人御上会守山病院で、その後財団法人守山会守山病院に経営が引き継がれました。市民病院開設当時は、内科・外科・小児科などの7診療科および人工透析でしたが、その後呼吸器科などの4診療科を新設するなど、経営改善をはかってきました。

一方で、市民生活に深く関わるごみを減量化する対策として、ごみの分別、ごみ袋への記名、埋め立て処分用地の確保、市民による「ごみの

ない美しい街づくり運動」を実施してきました。

ごみの減量化と市民の意識改革をはかるために、1982(昭和57)年に家庭系ごみの収集に指定袋制、指定エフ制を採用し、有料化に踏み切りました。翌年には事業系ごみにも同様の措置がなされました。5年後には、排出されるごみの量が3分の1に激減しました。さらに、1985(昭和60)年に幸津川町に所在する守山市環境センターが、焼却施設2炉を設置し、操業を開始しました。

※指定エフ制……荷札のような細い針金の付いた紙を配布し(一定数以上は有料)、出すごみにつけてもらう制度。



▲財団法人守山会守山病院が解散し守山市民病院が開設された [1982(昭和57)年]

1980 (昭和55) 年

- 1月 河西会館 (公民館) 開館
- 8月 守山市民憲章の制定
- 9月 守山市民球場オープン
- 11月 守山市立埋蔵文化財センター開館

1981 (昭和56) 年

- 6月 新住居表示制度実施 (梅田町)
- 10月 第36回国民体育大会開催 (バレーボール、軟式野球の会場)

1982 (昭和57) 年

- 2月 漁村センター(守山漁協) 完成
- 4月 地域総合センター・玉津会館 (公民館) 開館
財団法人守山会守山病院が解散し、
守山市民病院開設
- 7月 ごみ指定紙袋制・指定エフ制を導入
- 8月 第1回野洲川冒険大会開催

1983 (昭和58) 年

- 4月 県立守山北高等学校が開校
- 6月 市の人口、5万人超す

1984 (昭和59) 年

- 1月 中高年齢労働者福祉センター(サンライフ守山) オープン
- 4月 守山南中学校、守山中学校から分離開校
- 7月 交通安全都市を宣言

1985 (昭和60) 年

- 3月 第3次守山市総合発展計画策定
- 4月 守山市環境センター操業開始
- 5月 県下初の魚つり場オープン

1986 (昭和61) 年

- 3月 県下で再開発ビル1号となるセルバ守山オープン
市民プール完成
- 4月 守山市文化体育振興事業団設立
守山商工会議所設立
- 11月 市民ホールオープン

1987 (昭和62) 年

- 4月 守山市シルバー人材センター発足
コミュニティーロード「ほたる通り」
開通

1988 (昭和63) 年

- 3月 県立小児保健医療センター完成
- 4月 野洲川整備公社設立
県立守山養護学校が開校
- 12月 のどかな田園都市守山平和都市宣言を議決

1989 (平成元) 年

- 6月 宇野宗佑第75代内閣総理大臣に就任
- 8月 米国ミシガン州エイドリアン市と姉妹都市提携



▲守山市民ホール大ホール [1986(昭和61)年]

服部遺跡の発掘から 埋蔵文化財センター建設

野洲川放水路を建設している最中の1974(昭和49)年に、中洲小学校の5年児童が服部大橋の橋脚工事の現場で土器の破片を見つけ、先生に知らせたことが服部遺跡の発見につながりました。

服部遺跡は、その年から発掘が始まり、弥生時代のミニ水田や方形周溝墓、銅銭、銅印などが見つかри、縄文時代後期から鎌倉時代までの生活の跡がよくわかる複合遺跡です。

1980(昭和55)年に服部遺跡から出土した遺物を保存する埋蔵文化財センターを建設・開館しました。



▲開館記念の式典 [1986(昭和61)年]



▲完成当時の市民ホール外観 [1986(昭和61)年]

人口増にともない、 学校の分離・新設相次ぐ

この間の人口増加にともない、児童生徒数も増加の一途をたどってきました。1983(昭和58)年に市内3校目の高校として滋賀県立守山北高等学校が新設。翌年に守山南中学校が守山中学校から分離開校しました。

また、1988(昭和63)年には小児保健医療センターに入院する児童生

徒を対象とした滋賀県立守山養護学校が開校しました。

市民の文化・スポーツの 拠点づくり

1986(昭和61)年に市民の文化の殿堂にふさわしい構造と美観を備えた市民ホールがオープンしました。市民ホールは、舞台芸術の鑑賞や市民の芸術・創作活動、集会などが行



▲野洲川冒険大会いかだくんだり



▲木浜漁港



▲県下再開発ビル第1号となるセルバ守山オープン [1986(昭和61)年]

守山市制
50年の歩み
1980年代
1980(昭和55)年
1989(平成元年)



▲服部遺跡全景と出土品 [1985(昭和60)年]



昭和の発掘史に煌く遺跡



▲県立守山北高等学校 [1983(昭和58)年]



▲市立守山南中学校 [1984(昭和59)年]



▲市民運動公園(球場・体育館) [1980(昭和55)年]



▲守山市立埋蔵文化財センター



▲地域総合センターを玉津会館に併設 [1980(昭和55)年]

われる文化会館と社会教育の中核施設となる中央公民館がそれぞれ別の機能を発揮しながら、相乗効果が期待される複合施設として市民ホールを建設しました。

高校総体、びわこ国体を機に整備した市民体育館・市民球場を中心に

市民運動公園として各種スポーツ施設を順次整備し、1986(昭和61)年に市民プールが完成しました。こうしたスポーツ施設を利用して、市民スポーツカーニバルなど、多彩なスポーツ行事が行われ、現在に引き継がれています。

TOPICS 市民ホールの内装などに多くの浄財集まる

市民ホールのオープンを前に、より芸術性を高めて市民が誇れる施設にしたいという願いから、市民に寄付金を募りました。自治会や各種団体などから寄付があり、総額は約2600万円にもなりました。また、特別寄付として、9860万円の金品、大ホール・小ホールの絨帳、ピアノの物品が寄せられました。

こうした寄付金は、市民ロビーの壁画(つづれ織)、大ホール1階のホワイエと市民ギャラリーの壁画(陶板)の制作費用に当てられました。また、これらの図柄は、広く市民から募集し、決定したものです。市民の文化芸術に対する熱い思いが、市民ホールの施設整備に結実したものとといえるでしょう。



▲市民ホールホワイエの壁画

守山市制
50年の歩み

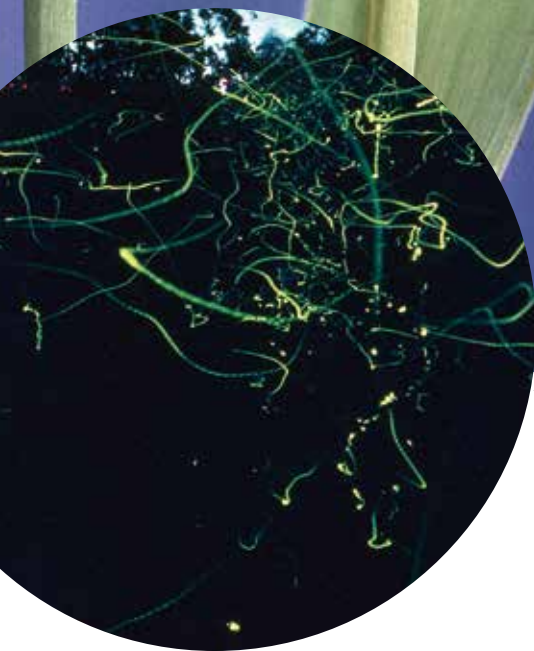
1990年代

1990(平成2)年

1999(平成11)年

自然との調和

こころかよう 光かがやくまちへ



◀初夏に光る守山のゲンジボタル
撮影者：岸井千里

市民の愛郷の思いを育む調和のとれたまちをめざして、ゲンジボタルの復活など、生活環境の改善や自然環境の保全を目的とした多くの取り組みがはじまりました。

ホタル復活をめざして

心の豊かさを重視し、しっかりと生活と活動の本拠を持てる社会を築こうと、国が提唱するふるさと創生の取り組みとして守山がめざし

◀「ほたるの住むまち」を図案化した市のマンホール



▲ほたるの森資料館では、ゲンジボタルの人工飼育や生態系の研究も行う

たのは、市民の提案を基にした「ほたるの住むまち ふるさと守山」事業でした。

水環境の悪化等により全滅状態となったゲンジボタル(守山ボタル)の復活をめざす拠点として、1990(平成2)年、市民運動公園の中にはたるの森資料館を整備しました。この資料館ではほたるの人工飼育や生態系の研究が行われています。

ほたるはきれいな水のバロメーターといわれています。ゲンジボタルの復活は、美しい水環境の復活と市民の河川環境保護意識の高まりに



▲世界のあじさいを集めたもりやま芦刈園

よるものです。1996(平成8)年に設立された豊穰の郷赤野井湾流域協議会は、ゲンジボタルが乱舞する水辺とシジミの住む琵琶湖の再現を目標として、水質調査や市民の意識啓発など水質改善と水辺環境の保全の活動に乗り出しました。

郷土の宝をいかす

清らかで自然豊かな川に生息するゲンジボタルの復活をめざしながら、先人の足跡や歴史にもスポットを当て、まちづくりにいかそうという動きが活発になりました。1994(平成6)年、湖上交通の要衝だった野洲浦港跡地に、1万本のアジサイを植栽したもりやま芦刈園が開園しました。1997(平成9)年には、古くから守り継いできた妙蓮(市花・県天然記念物)を後世に伝えてゆくとともに、観光資源としてもいかそうと近江妙蓮公園を開園しました。

豊かな恵みと自然災害の両面で守山の象徴となってきた野洲川の河川改修にともない、住民から提供した



▲今も続く赤野井湾の環境保全活動



←一つの花に3000～5000枚の花びらを持つ妙蓮



▲近江妙蓮公園

だいた水田は埋立地の果樹園と廃川敷地の畑地に代替されました。果樹園では住民の努力の積み重ねでナシやブドウなどが実を結び、1995(平成7)年にオープンした直売所もりやまフルーツランドで、守山の新しい特産品として販売がはじまりました。

人に優しいまち

のどかな田園都市として都市と自然の調和をめざす守山は、住む「ひと」の活力が最も重要であるとして、人に優しいまちづくりを進めました。

1993(平成5)年にオープンした福祉保健センター(すこやかセンター)は、福祉保健に関わる行政窓口と業務を集約。社会福祉協議会や医師会と連携して、妊産婦、乳幼児、成人、高齢者、障害のある人など、全市民の健やかな生活の実現に向けた大きな一歩となりました。

1995(平成7)年、甲斐道清市長のもと人権尊重都市を宣言しました。さらに文化の日には偉大な足跡を残した宇野宗佑(元内閣総理大臣)、森口華弘(京友禅人間国宝)両氏に名誉市民第1号の称号が贈られました。現在も守山宿・町家“うの家”で両氏の功績を見ることができ



The 50th MoriYama City Histories

1990 (平成2) 年

4月 物部小学校、守山小学校から分離開校
ほたるの森資料館オープン

10月 「ほたるの住むまちもりやま」のシンボルマークが公募により決定

1991 (平成3) 年

3月 守山市国際親善協会設立

4月 明富中学校、守山北中学校から分離開校

8月 韓国忠清南道公州市と姉妹都市提携

1992 (平成4) 年

1月 湖岸道路が開通
(木浜町一大津市大萱 14.7km)

3月 市の人口6万人を越す

1993 (平成5) 年

4月 福祉保健センターオープン
立入が丘小学校、吉身小学校から分離開校

1994 (平成6) 年

6月 もりやま芦刈園オープン
琵琶湖の水位マイナス123cmを記録

9月 ららぽーと守山が開店する

1995 (平成7) 年

2月 甲斐道清市長就任

9月 もりやまフルーツランドオープン
守山市人権尊重都市を宣言

11月 宇野宗佑、森口華弘、両氏に名誉市民称号を授与
北海道登別市など全国5市と災害時における相互応援協定締結

1996 (平成8) 年

4月 第3次守山市総合発展計画後期基本計画策定

9月 豊穰の郷赤野井湾流域協議会設立

11月 シルバーワークプラザオープン

1997 (平成9) 年

6月 近江妙蓮公園オープン

8月 市民運動公園内に平和モニュメント設置

1998 (平成10) 年

3月 守山市民病院の新本館が完成
佐川美術館オープン

4月 市ボランティア観光ガイド協会発足

1999 (平成11) 年

8月 市子育て支援総合計画策定
守山駅前連絡地下道に壁画二十八面完成

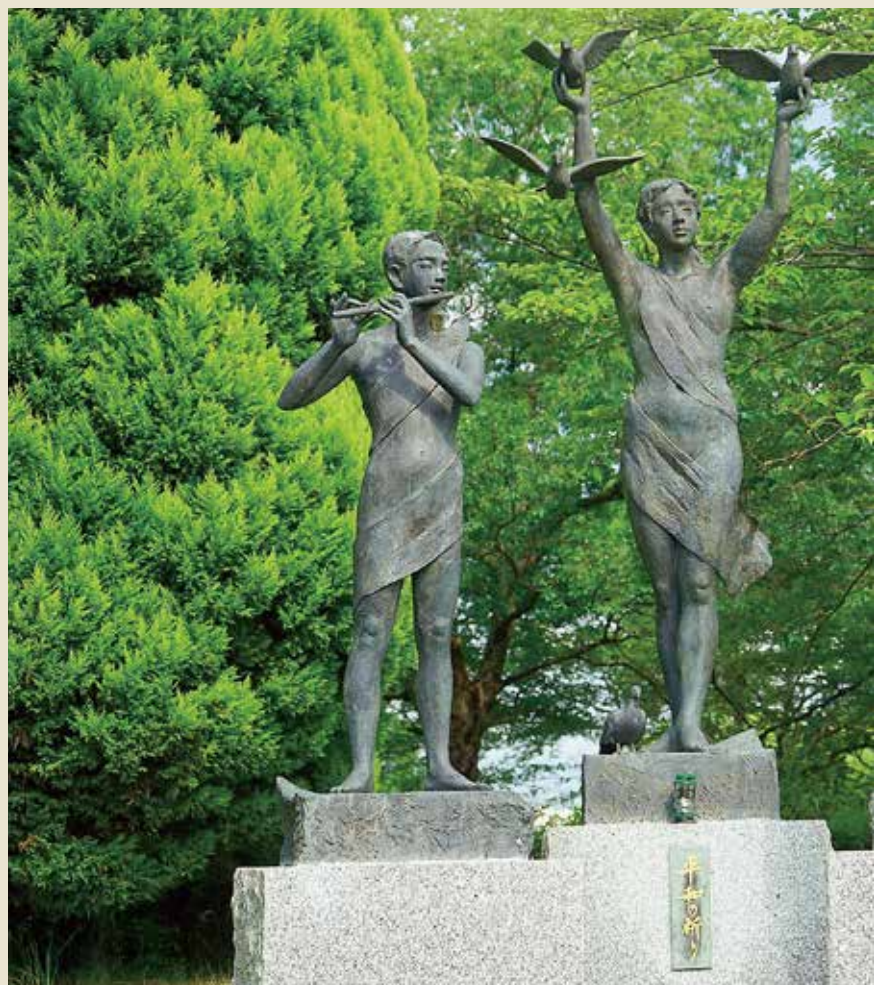


▲よい歯をつくるための紙芝居



▲福祉保健センター(すこやかセンター)

先人の苦労や教訓は、まちの未来を拓く指標



▲1997(平成9)年に設置された3体の彫像で、平和の音色にハトが羽ばたく様子を表現した平和モニュメント

教訓も伝え残す

先人の苦労や教訓は、まちの未来を拓く指標になります。甚大な被害をもたらした阪神淡路大震災の発生を受けて、まちの防災力を高めるため、1995(平成7)年11月、同じ昭和45年に市制を実現した守山市を含む全国6市が災害時における相互応援協定を締結しました。

戦後50周年にあたる1997(平成9)年、平和モニュメントが市民運動公園に設置されました。モニュメントの側には旧広島庁舎の被爆石が設置され、後に長崎の被爆二世の柿の木も移植されています。

子育てへの支援

全国的な少子高齢化が懸念されて

いる中、守山市では順調に人口が増加していました。子どもも増えて1990(平成2)年に守山小学校から物部小学校、1991(平成3)年に守山北中学校から明富中学校、1993(平成5)年に吉身小学校から立入が丘小学校と、相次いで分離開校しました。

こうしたなか、国は少子化対策として1994(平成6)年に「今後の子育て

TOPICS 阪神淡路大震災と市制施行同期の絆

1995(平成7)年1月17日の未明に発生した阪神淡路大震災の発生で、近畿は災害が少ないと思われていた神話は崩れました。大震災を教訓に、同じ1970(昭和45)年に特別措置法で市制を実現した全国6市(北海道登別市・新潟県豊栄市・東京都福生市・三重県久居市・山口県新南陽市・守山市)が同期の絆を発揮して、各代表が守山市民ホールに集まり「災害時における相互応援協定」に調印しました。

平成の大合併などで同期の絆による協定は守山市、登別市、福生市の3市になりましたが、その後、独自に友好を深めるなどして長野県飯田市、熊本県水俣市、愛媛県今治市、岐阜県高山市および福井県大野市と応援協定を締結しています。



▲阪神淡路大震災[1995(平成7)年]

守山市制
50年の歩み
1990年代
1990(平成2)年
~
1999(平成11)年



▲広島市の被爆石



▲長崎市の被爆二世の柿の木

市民運動公園の平和モニュメントは、1997(平成9)年、戦後50周年を機に設置されました。そばには旧広島市庁舎の被爆石や長崎の被爆二世の柿の木も移植されており、毎年8月6日には「平和を誓うつどい」が開催されています



▲毎年開かれている「平和を誓うつどい」

て支援のための施策の基本方針について(エンゼルプラン)」を、1999(平成11)年に「重点的に推進すべき少子化対策の具体的実施計画について(新エンゼルプラン)」を策定しました。市もこれを受けて、1999(平成11)年に、子どもたちの瞳に輝きとほほえみがあふれるようにとの願いをこめた、守山市子育て支援総合計画「守山っ子ほほえみプラン」を策定しました。



▲国際親善協会(現国際交流協会)が開催している国際交流の広場



▲市民の文化芸術の拠点となった佐川美術館



▲もりやまフルーツランド直売所



▲守山市ボランティア観光ガイドの活動

守山市制
50年の歩み

2000年代

2000(平成12)年
2009(平成21)年

市民が主役

ひと まち 自然が元気な都市へ



▲いきいきと授業を受ける少人数学級の子どもたち

ひと・まち・自然が
元気な健康都市をめざして
さまざまな施策を
展開しました。

健康都市を展望

2000年代に歩む道筋を明らかにする第4次守山市総合計画(もりやまレインボープラン2010)は「ひと・まち・自然が元気な健康都市」を基本理念としています。

子どもたちが健やかにたくましく

育っていくためには、みんなでのびのびと遊ぶことができる場が必要と、0歳から18歳までのすべての子どもが自由に遊べる、県下初の大型児童センター(ほほえみセンター)を開設しました。この施設では、子どもはもとより保護者同士の出会いやふれあいの場としても利用



▲大型児童センター(ほほえみセンター)は乳児から児童、生徒まで過ごせる集いの場



▲多目的室で開催された親子木工教室

The Garden City
つなぐ、守山

2000
↓
2009

The 50th

Moriyama City Histories



▲ビッグレイクは野洲川廃川敷地を活用して建設された



▲野洲川歴史公園サッカー場(ビッグレイク)



▲北消防署と併設されたコミュニティ防災センター[2003(平成15)年竣工]

されています。

進み続ける核家族化や女性の社会進出に対応して保育園の整備を進めるとともに、放課後における児童の居場所として放課後児童クラブを拡充しました。年々利用は増えてきています。

サッカー熱が高まるなか、野洲川廃川敷地を活用して野洲川歴史公園サッカー場(ビッグレイク)を建設しました。他府県からの来場者も含め、多くの市民がスポーツをいきいきと楽しんでいます。

安全の徹底

2001(平成13)年12月に大切な水道水の供給源である立入水源地の深井戸に基準値を超える四塩化炭素が検出されました。市は井戸の運転を停止してこれを公表のうえ汚染の原因究明を行い、新設井戸の確保と浄水処理施設の整備を早急に講じて安全を確保しました。これ以後日常安全点検と検査結果の公表を徹底する

など、安全で安心な水の供給に傾注しています。

合併の検討

1995(平成7)年の合併特例法に端を発し平成の大合併といわれた全国的な市町村合併の動きのなか、本市でも合併を検討しました。当初は湖南2市3町案が検討され、その後守山・中主・野洲の1市2町での合併協議会が発足しましたが、協議がまとまらず1年も経ずに当協議会は廃止されることとなりました。



▲立入水源地

2000 (平成12) 年

- 4月 市はたると市情報公開条例を施行
市公文書館開館
平安女学院大学開学
- 7月 第4次守山市総合計画策定

2001 (平成13) 年

- 4月 びわこ地球市民の森の森づくり始まる
- 11月 第9回世界湖沼会議守山セッション開催
- 12月 立入水源地から四塩化炭素検出

2002 (平成14) 年

- 3月 下之郷遺跡が国史跡に指定
- 4月 野洲川斎苑の供用開始
県下初の大規模児童センターオープン
駅前総合案内所オープン
- 7月 美崎公園オープン
- 11月 守山市・中主町・野洲町合併協議会廃止

2003 (平成15) 年

- 2月 山田巨宏市長就任
市コミュニティ防災センター、北消防署の新庁舎竣工
滋賀県立守山中学校開校
- 9月 初の市民100人委員会を開催

2004 (平成16) 年

- 3月 市の人口が7万人を突破
- 5月 市民交流センター(さんさん守山)オープン
守山はたるとパークアンドライド始まる

2005 (平成17) 年

- 7月 小学校低学年少人数学級認定、翌年度からスタート
- 10月 野洲川歴史公園サッカー場オープン

2006 (平成18) 年

- 4月 守山女子高等学校を学校法人立命館に移管、立命館守山高等学校が開校
- 10月 野洲川歴史公園田園空間センター開設

2007 (平成19) 年

- 9月 琵琶湖境界の確定なる(官報告示)
- 11月 事業仕分けを公開実施

2008 (平成20) 年

- 5月 J A おうみ富士ファーマーズマーケットおうみんちオープン
- 8月 中山道街道文化交流館オープン
- 9月 みらいもりやま21(まちづくり会社)が発足
- 11月 市生涯学習・教育支援センターオープン

2009 (平成21) 年

- 3月 守山市中心市街地活性化基本計画認定
- 12月 第5次守山市総合計画(「わ」で輝かせようふるさと守山)策定



▲立命館守山中学校・高等学校(三宅町)



▲記念碑として守山女子高等学校の門柱が残されている



▲エルセンターの竣工式



▲女子高跡地に開設したエルセンター

市立守山女子高等学校の 変遷

大学を核としたまちづくりをめざして誘致した平安女学院大学は、経営上の問題から、わずか5年で撤退することになりました。

一方、市立守山女子高等学校は1959(昭和34)年の開校以来47年間県内の女子教育を担ってきましたが、将来を見据える中で学校法人立命館への移管が決まりました。1万人以上の卒業生を輩出した同校の歴史と伝統は立命館守山高等学校へ引き継がれることになりました。

平安女学院大学撤退の跡地に立命館守山高等学校と同中学校が開校され、教育の向上とまちの発展が期待されることとなりました。

守山女子高等学校の跡地には生涯学習・教育支援センター(エルセンター)を開校し、市民の生涯学習の場として、また教育研究の場として

活用することになりました。ここには今も守山女子高等学校の門柱が大切に残されています。

市民参画と教育の充実

山田亘宏市長は市民が主役のまちづくりを柱として、市民100人委員会やパブリックコメント、タウンミーティングなどを設け、市民がまちづくりに参画しやすい新しい仕組みをつくりました。

また、次世代を担う子どもたちの教育環境充実が重要であるとして、本市独自施策で小学校低学年の少人数学級を導入し、学力や学校生活の質的向上に力を注ぎました。

幼児教育にあっては「守山市幼児教育振興プラン」を策定し、認定こども園の取り組みなどにより順次3歳児保育の実施を展開していきました。



▲玉津こども園、園舎の外観



▲市民参画の取り組み(100人委員会)

地域の産業や資源が観光スポットに



▲ファーマーズマーケットおうみんち



▲野洲川歴史公園完成記念碑



▲守山駅前総合案内所



▲びわこ地球市民の森



▲美崎公園

地域の産業や資源が 観光スポットに

美崎公園が2002(平成14)年にオープンしました。水生昆虫・魚・野鳥など自然を満喫でき、体験教室も開かれます。バーベキューやキャンプも楽しめます。

JAおうみ富士が、地元産の野菜・切花・お米などを販売する

ファーマーズマーケット「おうみんち」を2008(平成20)年にオープンしました。滋賀県最大級の農産物直売所で、新鮮な地元野菜を買い求める人でにぎわっています。

同年に、中山道街道文化交流館がオープンしました。江戸時代から続く町家を整備しています。展示や喫茶コーナーなどがあり、多くの観光客が利用しています。



▲中山道街道文化交流館

TOPICS 市独自の施策で少人数学級が実現

少人数学級は、1学級あたりの児童数を、国の基準より少ない人数とするもの。これまで国の基準人数は50人→45人→40人→小学1年生のみ35人と引き下げられてきました。しかし、諸外国と比較するとまだ児童数が多く、教員の目が行き届くのは難しい状態です。

市は不登校児童の減少や基礎学力の向上をねらいに、少人数学級の検討を2004(平成16)年に開始。関係者や市民の意識調査を踏まえたうえで、国に教育特区を申し出ました。2005(平成17)年に認定され翌年度から実施に移し、2018(平成30)年度の時点で小学1～3年生を対象に32人を上限とする少人数学級編制を実施しており、保護者や教職員から評価を得ています。



▲少人数学級の授業風景

守山市制
50年の歩み

2010年代

2010(平成22)年

2019(令和元)年

さらなる飛躍へ

未来につなぐ ふるさとづくり



▲市民・子どもが集うあまが池プラザ

▲中心市街地活性化の拠点として整備されたあまが池プラザ

**市民参画、市民公益活動が充実するなか、
中心市街地、学区の特色をいかした
まると活性化事業を展開。
未来につなぐ公共施設の整備や活用も行われています。**

市民が主役の まちづくりが進展

2010(平成22)年に市民参加と協働のまちづくり条例を制定しました。条例では市民参加を、市民が主体的に市政に参加する市民参画と、市民が自主的に社会のために行う市民公益活動への参加に整理しています。これをきっかけに加入率の高い自治会の活動をはじめ、さまざまな市民活動がさらに活性化し、互いが助け合う「市民が主役のまちづくり」が進んできました。

中心市街地の活性化、 さらにまると活性化へ

2011(平成23)年に宮本和宏市長が就任し、中心市街地活性化事業、守山まると活性化事業をいっそう推進していくことになります。市中心市街地活性化基本計画(2009年認定)では、絆と活力ある「共生都市」の創造を基本理念とした、コンパクトなまちづくりをめざしています。その目標は、子どもから高齢者まで幅広い世代が共生できるまち、住民参加により地域資源をいかし、魅力

的で歩いて楽しいまちの実現です。まずは中心市街地の活力を引き上げ、その波及効果により市全域の底上げをはかろうとするものです。

中心市街地活性化事業を推進するための拠点施設を整備してきました。2012(平成24)年に守山宿・町家“うの家”、あまが池プラザ、次いでチカ守山がオープンしました。2010(平成22)年に開催した、ほたる探検紀行(バル)、もりやま100円商店街、まちゼミは、滋賀県下では初めての取り組みとして、大きな反響をよび、注目を集めました。

The Garden City
つなぐ、守山

2010
↓
2019

The 50th

Moriyama City Histories



▲伊勢遺跡復元予想図 (CG作成：小谷正澄)



▲下之郷遺跡まつり

この運営推進の中心組織が、みらいもりやま21(まちづくり会社)です。

2014(平成26)年には、市全域に広げるべく、守山まると活性化プランを策定し、学区ごとに地域の特色をいかして、諸事業を着実に展開してきています。

遺跡・文化財の保存・整備・活用へ

下之郷遺跡は、2002(平成14)年に国史跡となり、2010(平成22)年に下之郷史跡公園をオープンしました。史跡公園では、弥生時代にちなんだ講座や体験活動を実施し、遺跡の理解をはかり、毎年11月に地元

守山まると活性化プラン学区ごとの取り組み (プロジェクトテーマ)

守山学区	人がつながり、自然と歴史を大切にするまち
吉身学区	吉身はめざます 自然・歴史・文化を次世代につなげるまち
小津学区	人と水と歴史がつながる生成りのまち
玉津学区	玉津の伝統文化を活かし、先人の暮らしの知恵を子どもたちに引き継ぐまち
河西学区	「人をつなぐ」「四季をつなぐ」「たからものをつなぐ」未来につながるまちづくり
速野学区	守山の北玄関 速野まると博物館構想 ～人・自然・歴史がおりなす理想郷を目指して～
中洲学区	野洲川とともに生き、野洲川とともに栄えるまち ～心が通い合う「和む」まち～

2010 (平成22) 年

- 3月 市民参加と協働のまちづくり条例を制定
- 11月 下之郷史跡公園がオープン

2011 (平成23) 年

- 1月 市民体育館多目的アリーナ・弓道場完成
- 2月 宮本和宏市長就任
- 11月 えんまどう公園完成

2012 (平成24) 年

- 1月 伊勢遺跡が国史跡に指定
歴史文化まちづくり館(守山宿・町家“うの家”)オープン
- 7月 中心市街地活性化交流プラザ(あまが池プラザ)・あまが池親水緑地オープン
- 12月 モーリーカー運行開始

2013 (平成25) 年

- 3月 守山中学校体育館に守山市民ソーラー1号機設置
- 10月 市の人口8万人到達
勝部4号雨水幹線完成

2014 (平成26) 年

- 2月 セルバ守山の地下に「チカ守山」オープン
- 3月 守山まると活性化プランを策定
- 9月 琵琶湖大橋開通50周年記念イベント開催

2015 (平成27) 年

- 5月 立田町に「ラウンドアバウト」完成
- 6月 もりやま循環型ふるさと“農”税として、ふるさと納税リニューアル
- 9月 守山市教育行政大綱制定
- 10月 守山市まち・ひと・しごと創生総合戦略を策定

2016 (平成28) 年

- 6月 モーリー守山ふるさと大使を任命

2017 (平成29) 年

- 8月 cocotto MORIYAMA オープン
- 10月 環境学習都市宣言を制定

2018 (平成30) 年

- 1月 滋賀県立成人病センターが滋賀県立総合病院に名称を変更
- 4月 守山市民病院が済生会守山市民病院としてスタート
- 7月 守山市指定文化財(史跡)「大庄屋諏訪家屋敷」開館
- 11月 新市立図書館オープン

2019 (平成31/令和元) 年

- 9月 野洲川通水40周年記念式典
- 10月 新市立図書館で貸し出し100万冊達成
- 12月 「灯りでつなぐ、守山2019」でギネス世界記録達成



▲大庄屋諏訪家屋敷主屋と書院

の自治会や学校園、多くの市民団体が結集し、遺跡まつりを開催しています。

伊勢遺跡は、竪穴建物や大型掘立柱建物の遺構が発見された弥生時代後期の集落跡です。2012(平成24)年に国史跡の指定を受け、保存整備活用委員会伊勢遺跡専門部会で話し合わせ、保存・整備・活用の計画を作成しました。政治を執り行う大型建物と方形区画・楼観を中心に弧状に配置された祭殿・祭殿外側の空間と弧状区画溝に分け、整備していくことになっています。

また、大庄屋諏訪家屋敷は、江戸時代後期に建築され、主屋、書院、土蔵、茶室などの建造物と2つの庭園からなり、1977(昭和52)年に市の史跡に指定されました。2014(平成26)年に当主から寄付を受け、屋敷の保存・整備を進め、2018(平成30)年にオープンしました。



▲守山市環境学習都市宣言制定記念式典



▲新環境施設完成予想図



▲新館建設中の済生会守山市民病院

環境施設更新の取り組みが前進！

2017(平成29)年に地元4自治会(今浜・水保・立田・幸津川)と市が環境施設の建設に関する基本協定書を締結しました。

あわせて、守山市ごみ・水環境問題市民会議を中心に議論を重ね、中高生からも意見を聞き、「守山市環境学習都市宣言」を制定しました。その内容は、守山らしさを感じられる環境を次世代に引き継いでいこうとするものです。新しい環境施設は、

2021(令和3)年10月に稼働できるように、工事を進めています。

済生会守山市民病院として再出発

地域の医療を支えてきた守山市民病院が、2018(平成30)年4月から済生会守山市民病院として再出発しました。今後は、済生会の技術力とネットワークをいかし、急速な高齢化に対応して、回復期と慢性期疾患の診療を重点的に行っていくこととなります。

TOPICS みらいもりやま21のめざすもの

株式会社みらいもりやま21は、2008(平成20)年に発足しました。各種団体と協働しながら、固定観念にとらわれない発想力と行動力で、中心市街地の活性化をめざして、日々取り組んでいます。

みらいもりやま21では、「まちづくり会社は黒子に徹します！まちの主役は、市民や商店主、その他さまざまな団体の人々です。私たちはその活動を陰で支え、日々応援しています。これからも守山が、住みたいまち・暮らしたいまちであり続けるよう活動を続けます。」をモットーに、これからもさまざまな活動を展開していきます。



▲会議の様子



▲灯りをつなぐ、守山2019



▲メタセコイアにメッセージを飾り付ける

新しい図書館が開館

2018(平成30)年11月に、豊富で多種多様な資料と、市民が文化・芸術・市民活動を十分に行うことができる広いスペースが一体となった新図書館が開館しました。館内は、壁面・床面に多くの木材が使われた軽やかな木質空間であるとともに、採光が多く、自然を感じることのできる、明るく開放的な図書館となっています。

温かな空間の中で、図書館はあらゆる市民が自分の求めている本と出会い、ゆったりとした時間を過ごし、心豊かに暮らせる知の広場として生まれ変わりました。図書館は、「本と人が出会い、人と人がつな

る知の広場」をコンセプトに、市民と本の出会いを生み出し、本を通して人と人がつながる場となることをめざしています。

新しい図書館が開館して1年を待たずして、2019(令和元)年10月に本の貸し出しが100万冊を超え、セレモニーが行われました。

新庁舎 『つなぐ、守の舎』

2019(令和元)年8月に、221人が参加し、多くの市民の注目を集めるなか、市役所新庁舎の設計に関する公開プレゼンテーションおよびヒアリングを実施しました。設計事業所が決まり、2024(令和6)年に

完成する予定です。

「灯りをつなぐ、守山2019」

市制施行50周年につなぐ記念事業の第1弾(イベント)として、2019(令和元)年12月に「灯りをつなぐ、守山2019」を開催しました。

市内で一番高い中洲小学校のメタセコイアの木(約29m)に多くの市民が「夢」や「希望」を書いたメッセージカードを飾り付け、その展示数でギネス世界記録を打ち立てることができました。(ギネス世界記録認定枚数：5万1626枚)

新施設の建設が進む



▲新庁舎『つなぐ、守の舎』



▲新しくできた図書館



▲新図書館貸し出し100万冊達成記念

色褪せることなく未来を見守る
まちを彩る文化の香りは
市制50周年を迎える守山市へ

酒井 榮一 (さかい・えいいち)

幼いころ、小児麻痺で片足が悪く、友人と行った美術館で日本刺繍を見て美しさに心ひ



プロフィール ■1919年守山市山賀町生まれ。ろうけつ染の技術で作品を創作する工芸作家。守山市文化協会の創立にも尽力。主な受賞歴は、日本文化庁地域文化功労賞受賞。世界平和芸術賞受賞等。各市美術展審査員。

かれ、京都で日本刺繍を習いました。ろうけつ染にも出会い、さまざまな作品を創作し、日展に入選。守山の自宅で生まれた作品は、東京、大阪、海外まで行き、私の世界を広げてくれました。

私が心身ともに若く意欲に燃えていた50年前に守山町から市制となり、地域文化の向上を願って創立に加わった守山市文化協会では伝統文化と西洋文化がともに研鑽しながら、今も成長を続けています。

日本刺繍、ろうけつ染の楽しさや技法を知っていただくこと、公民館講座を滋賀県各地で開き、大阪、神戸にも出向き多くの方に教えました。展覧会に出品し受賞した方や学んだ技術を地域で教えている方もいます。

人生には限りがありますが、私の寄付した作品やまちを彩る文化の香りはこれからも守山市とともにずっと残り、色褪せることなくまちの未来を見つめていくことを嬉しく思います。

HOT Messages 守山人からの熱きメッセージ

50年後に素敵なまちになつていきますように
守山市の未来に期待すること

井上 舞美 (いのうえ・まみ)

私は東京2020パラリンピックに出場する、という夢に向かってトレーニングを積んでいます。私が、自分の夢をかなえることが、私から守山市への誕生祝いのプレゼントになるかもしれません。

4歳で水泳をはじめて、高校1年生でパラスポーツの世界に入りました。社会人となり、仕事しながら、パラ水泳の日本代表選手として、毎日の練習や国内外の大会や強化合宿にも参加しています。

パラ選手としても少し注目されるようになり、まち中で知らない人から応援の声をもらうこともできました。プレッシャーはありますが、周囲の温かさや支えに励まされてきついついトレーニングもがんばっています。

50年後の私は選手も仕事も引退していますが、でもマスターズなどで泳いでいるかもしれません。その時までには守山市もお洒落な店や高層ビルが並ぶ、東京みたいな素敵なまちになってほしいです。

プロフィール ■守山市在住。滋賀友泳会 / 大津イトマン所属。2020年東京パラリンピック水泳の部で期待の星。2018年第21回日本知的障害者選手権水泳競技大会(神奈川)や2018バンパシフィックパラ水泳選手権大会等で好成績を残す。



改めて守山を見つめて

豊かさには、

「心のみずみずしさ」が伴う

中島桃子 (なかじま・もかこ)

2018年の秋から「本のがんこ堂」さんと組んでモリヤマモカコの月イチ“がんこエッセイ”「TOKYO発、シガ行」というのを始めました。そのことは私にとって改めて故郷というものを見つめるきっかけとなりました。新しくできた図書館でトークショーもさせていただいたし、守山に「伊勢遺跡」というすごいものがあることも知りました。東京の写真家さんが「守山で君を撮ろう」と言ってくれて春には守山で撮影をしました。そんな風に改めて「守山」という町を見つめて私が感じたことは、この町はこれまでも豊かであったし、そして今でもとても豊かであるということ。その豊かさというのは「心のみずみずしさ」を伴うものです。勝部神社の脇の道路には舗装された時に描かれた子どもたちの絵がタイルになって埋め込まれています。それは私が小学校の時の出来事で、絵がタイルになった後、そこを歩いて帰るのがとても誇ら

しかったのを思い出します。これからも、いつか大人になる子どもたちの心に細胞に刻まれるみずみずしい豊かさを携えた町でいてほしいと思います。

プロフィール■1979年守山市勝部町生まれ。「蝶番(ちょうつがい)第4回新潮エンターテインメント大賞を受賞し小説家デビュー。小説以外にも演劇など多様な活動を手掛ける。



守山人からの
熱きメッセージ

Messages

HOT

巻渕大輔 (まきぶち・だいすけ)

守山市制施行 50 周年おめでとうございます。私は会社員として働く傍ら、「神楽家小粋」の芸名で素人落語活動を続けており、守山市内でも落語会を開催させていただいております。

2018年に「第10回社会人落語日本一決定戦」で優勝し日本一、『社会人落語10代目名人』の称号を勝ち取ることができました。その際、守山の方々も自分のことのように喜んで下さり、たくさんの「おめでとう」という言葉をいただきました。

自治会や敬老会にお邪魔して落語を演じさせていただく機会も増えましたが、いつも守山の皆さんの笑顔に元気をもらっています。この人のつながり、笑顔こそが守山の強さだと感じております。私にはこの守山に寄席小屋を作りたいという夢があります。その夢の実現に向けて、これからも素人落語ではありますが、私の高座で守山に笑顔を増やしていけるよう精進したいと思います。次の50年も守山が今以上に笑顔があふれる街となるよう願っております。

プロフィール■エンジニア。アマチュアで活躍する社会人落語家の王者を決める「社会人落語日本一決定戦」で10代目名人となった。高座名「神楽家小粋(かぐらや・こいぎ)」。

守山市制50周年に寄せて

落語で今以上に

笑顔あふれるまちとなるよう



世界に門戸を広げ 共栄する守山にならんことを

国際化が進む守山で

山中菜奈穂 (やまなか・ななほ)

守山で過ごした中学・高校生時代、下之郷の田んぼの緑と落ち着いた住宅街が入り混じった平和な光景の中、私は毎朝のりくりと学校へ自転車を走らせながら、スーダンやアフガンの紛争に苦しむ市民に思いを馳せ



ておりました。当時は国外のニュースは遠い世界の出来事だと思っておりましたが、守山市も瞬く間に国際化が進み、今では「ビワイチ」をはじめ、観光産業を中心に国外からも色んな国籍の方が訪れるまでに進化しました。日本が外国人労働者の受け入れを進める中、これからの50年、守山市にはさらに門戸を広げ、移民や紛争から逃れた難民まで受け入れられるオープンな心意気を期待したいと思います！ 私の前職国際協力機構の名誉理事、故緒方貞子さんは「自分の国だけの平和はありえない」と、日本人としての世界平和への責任を語ってこられました。世界に門戸を広げ、分かち合い、共栄する守山にならんことを願います。

プロフィール■京都大学卒業後、国際協力機構(JICA)に入構。南スーダン事務所勤務を経て退職し、米国フレッチャー法律外交大学院で学ぶ。大学院修士課程を終え、国際連合本部・平和活動局に就職。平和・紛争解決問題に取り組んでいる数少ない日本人の一人。

HOT
Messages

守山人からの 熱きメッセージ

「三方よし」の理念を忘れず 地元農業へ貢献したい

守山市農業への思い

清水裕之 (しみず・ひろゆき)

大阪市内で、滋賀県産食材にこだわった飲食店「花様ka-you」を経営していましたが、15年前、守山市木浜町に引っ越してきました。近隣の農業、水産業、畜産業、食品加工業などの生産者様から仕入れ始め、滋賀県内全域まで拡大し、現在のお取引先の数は300戸を超えました。

守山市の農家さんたちとは、2004年頃からお付き合いが始まり、畑やハウスを訪ねては、農業を取り巻く環境や、野菜の栽培や管理の難しさなどを、たくさん教えていただきました。天候や災害で出荷計画が狂うことは、日常的に起こります。それでも愛情込めて栽培している生産者と日々会っていると、自分の力で、地元の生産者の方々に喜んでもらうために、何か貢献できることはないかと考えるようになりました。その一つとして、守山市内の各スーパーで、新鮮な守山産の野菜を並べて販売したところ、よく売れることが分かり、市民の「地産地消」の意識の高さを再認識しました。半面、市内の生産背景

プロフィール■株式会社EVERGREEN代表取締役社長(滋賀県産食材及び加工品の製造、流通、卸売、販売、店舗運営)、株式会社ガーデン代表取締役社長(大阪市内に展開する飲食店「花様ka-you、花殿ka-den」の店舗運営)



は、非常に厳しく、農業生産人口の超高齢化による減少、後継者不足が浮き彫りとなり深刻です。新規就農者を増加させるためには、「魅力のある儲かる農業のモデル」を構築し、生産者所得を上げるための販路確保が必要です。弊社における生産・流通・販売のトータルを管理する取り組みが、少しでも地元産業の振興と発展の役に立てばと考えており、「売り手よし」「買い手よし」「世間よし」の理念を忘れず、守山市に今後も貢献していきたいと思っています。